

実践⑥ 伊敷台小学校 朝読ボランティア「いちょう」

読み聞かせを終えた朝9時頃、伊敷台小学校のボランティア室に読み手たち（保護者と卒業生保護者）が集まります。読んだ絵本やわらべうたとともに、子供たちの反応・気づいたことなどで記録簿の欄が埋まっていきます。次回読む本を配本して帰る人、しばらく歓談する人、わらべうたをおさらいする人…。十数年間変わらずに続いている風景です。

活動の始まりは2007年、ある転入生のお母さん。前籍校で朝読書の時間に読み聞かせをしていた経験から「伊敷台小学校でも我が子のクラスで読めたら…」と軽い気持ちで、親子読書会で出会った仲間と共に朝読書タイムに読み聞かせを始めました。翌年度からは全学年で活動を開始。グループ名は校章に描かれている「いちょう」から名付けました。

読み聞かせは、古典といわれる絵本を中心に、詩、かぞえうた、ことばあそび、かがくの絵本等を学年ごとに選んでいます。中学年までに日本の昔話を、5年生から世界の昔話を、6年生には幼い頃に読んだ懐かしい絵本も届けるようにしています。絵本の間には季節のわらべうたを取り入れ、また、一学年に1回ずつ素話（語り）を実施しています。

「主役は絵本、読み手は絵本の額縁」私たちは、子供が本の世界を自由に捉えられるように表記に忠実に読んでいます。一年間の読み聞かせの記録は製本して共有しています。

また、新年度に、転入生が教室に案内されるまで待機している時間を利用して、おはなし会を開いています。子供たちの心細さを少しでも和らげることができたらという思いで始めました。この場で出会い、仲間になった保護者も多数います。

今年から先生も一緒に読み聞かせを楽しみ、子供と絵本の話共有している姿も見られます。年度末には、毎年子供たちからメッセージカードを手渡されます。読み聞かせを続けていて、子供たちの成長を感じられることが私たちへのご褒美です。

時が経ち、メンバーが入れ替わっても、子供たちへの思いを一番に大切に、設立当初の思いをそれぞれが理解し、引き継いで繋いでいきたい。この地域の仲間と、子供たちに豊かな本を届け、成長を見守る。この場所と時間を大切に守っていききたい。それが私たちの心からの願いです。

